

# 2022 Japan National Team Report ” サポーター”



報告者氏名	吉岡 恭子
大会名	2022 Optimist European Championship
開催地	Denmark Sønderborg
大会期間	7/30～8/5

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
  1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
  2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
  3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
 

このレポートを補足する資料として必要な場合は、文中に貼り付けて下さい

開催地域の様子	真夏であるにも関わらず、気温は穏やか。肌寒い日も。防寒を考えた服装が必要。風は全船に微風であった。 ハーバーはきれいに整備されており、控え室、トイレなども充分である。出艇や帰着場所が狭く混雑するため途中で逆側の浜も使用された点は不備があったと思われる。
宿泊場所	サポーターは期間中、一軒の貸別荘で過ごした。レンタカーを使用し片道15分程度のハーバーまで送迎。選手のホテルとも車で10分ほどの距離。夜には選手を招いて食事することもでき、十分な広さと設備だった。
大会のサポーターへの対応は	大会が設置した大テント(選手などの夕飯でも使用)でレースの様子が画面で見ることができたが、利用していたのは日本のサポーターのみであった。他各国は特に親などが来ることもないようで、期間中全く利用されていないようだった。サポーターへの対応としては特になかったが、ドイツ空港までの送迎などは選手などと同様に行ってもらえた。
選手たちのコンディションいつもとどうでしたか？	日本で過ごすよりも気候が良く、体長は整えやすかったと思う。特に不調を訴える者もおらず、1週間であったが精神面ではやはり緊張がかなりあったと思われる。
サポーターとして気をつけたことは？	補食などの用意は、おにぎり、飲み物、フルーツ、おやつなど種類を用意して、選手がなるべく楽しく落ち着いていられるような物を用意した。特有の朝昼晩のパン食にすぐに飽きた選手たちをサポーターの宿泊先に迎えて、大会中2度夕飯を共にした。宿では体を動かすこともでき、選手たちは楽しくストレス発散できたと思う。
海外の選手を見て感じたことは？	今回の大会、日本チームは14-5歳(中学3年生)のみだったが、他チームはかなり体格が小さく、年齢が低かったように思う。
日本の選手を見て感じたことは？	ヨーロッパという環境で、普段とは全く違う場所に来たことは良い経験だった。海外チームの実力を感じられたのもよかった

Spare day の 過ごし方は？	今回は大会場所までの移動が長く、到着すぐに大会であったため、予備日のような時間は取れなかった。
日本チームとしての課題はありましたか	やはり年齢。大会出場できる最後の年齢の選手ばかりであったため、今回の良い体験を日本で伝えていくのが難しいと思う。あと2・3年低い年齢であれば、今後の日本国内でのレースなどで経験を活かしたレースができたか、他の選手たちも肌で感じる事もできるように思います。
JODAへの要望	海外への機会を増やす。 もっと小規模なものでも良いので、海外選手の実力に触れる機会があればいいと思います。
その他	今回は日本国内でもコロナ感染が爆発的に増えている時期での大会出場であった。コロナ感染で出場できないという可能性も高く不安・緊張感が高かった。 またウクライナ問題で、飛行機の経路が思うようにいかなかったり、通常の状態での大会出場ではなかったと思います。コロナの陰性証明が取れずに滞在が延びてしまったり、個人負担の多い出場であった。 今後、選手を育てる、ヨットの活動を盛り上げるのであれば、個人の負担が大きいのは問題。

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会